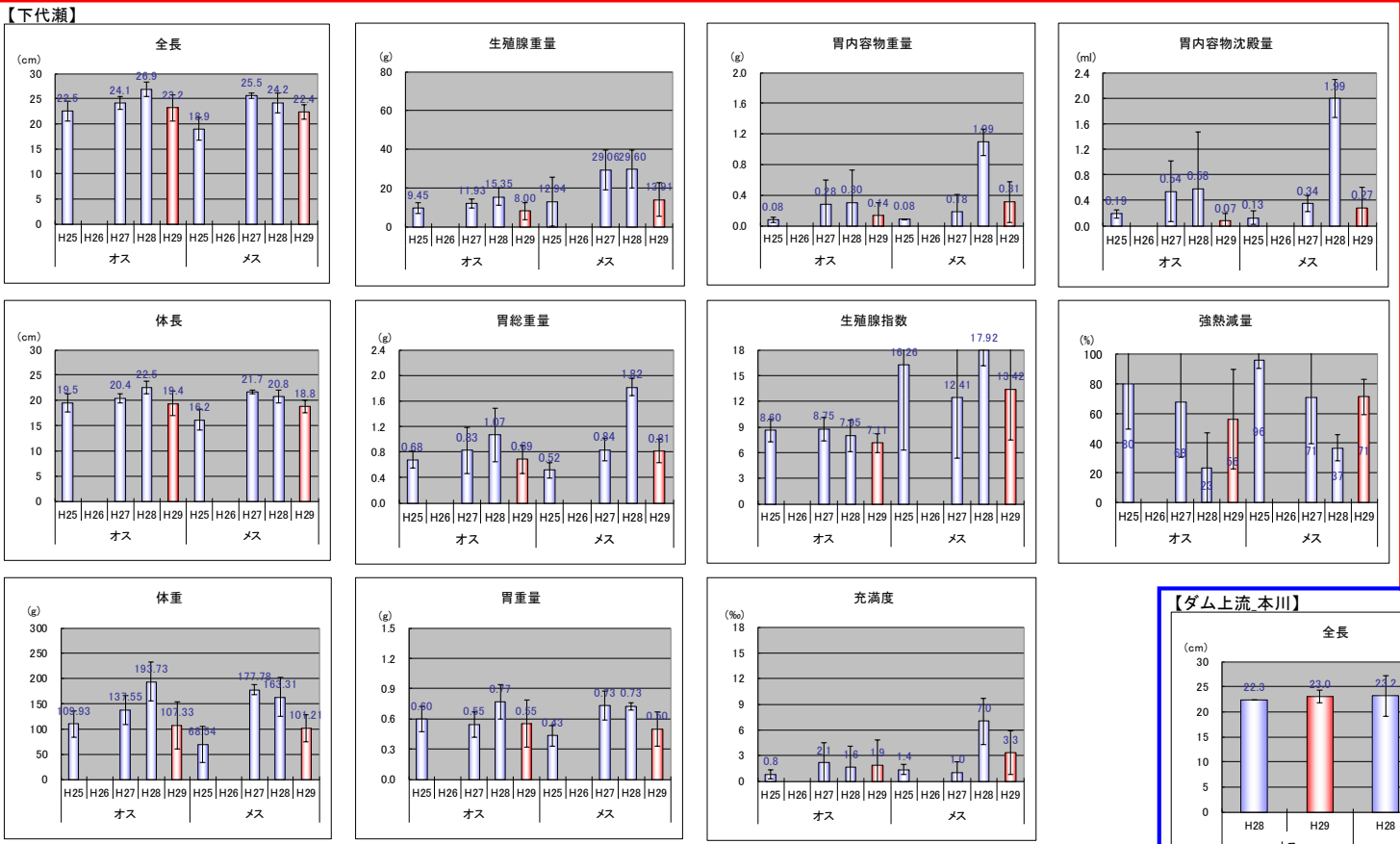


2) 動物（アユの胃内容物） 注：経年比較は、H25 及び H27 が秋季のみのデータであることから、夏季のデータは用いず秋季のデータを用いた。

【参考資料 I -246 参照】

評価項目	視点	平成 29 年度の調査結果概要	評価概要
みお筋撤去前後のアユの 成育変化状況	胃内容物の変化 状況把握	- ダム下流の下代瀬は H25～28 年度にかけて、全長等の多くの測定項目が増加した後、H29 年度は減少し、H25 年度のレベルに戻っている。また、メスの H27～29 年度の胃内容物沈殿量及び強熱減量に着目すると、前者は凸型、後者は凹型の形状を示している。 - ダム下流の道の駅坂本では、全長、体長、体重及び生殖腺重量をみると、漸減傾向を示している。また、H27～29 年度の胃内容物沈殿量及び強熱減量に着目すると、オス及びメスともに、下代瀬と同様の傾向を示している。 - 西鎌瀬を含むダム上流の本川についても、各年度の捕獲個体数が 1～2 及び 4 個体であるため、経年変化傾向について精度の高い推定が困難である。ダム下流の下代瀬及び道の駅坂本と比較して、全長、体長、体重及び生殖腺重量に大きな差異はないようにみえる。	これまでの調査において、荒瀬ダム撤去事業に関連した明確な変化はみられないことから、アユの胃内容物調査は、H29 年度調査をもって完了することとした。

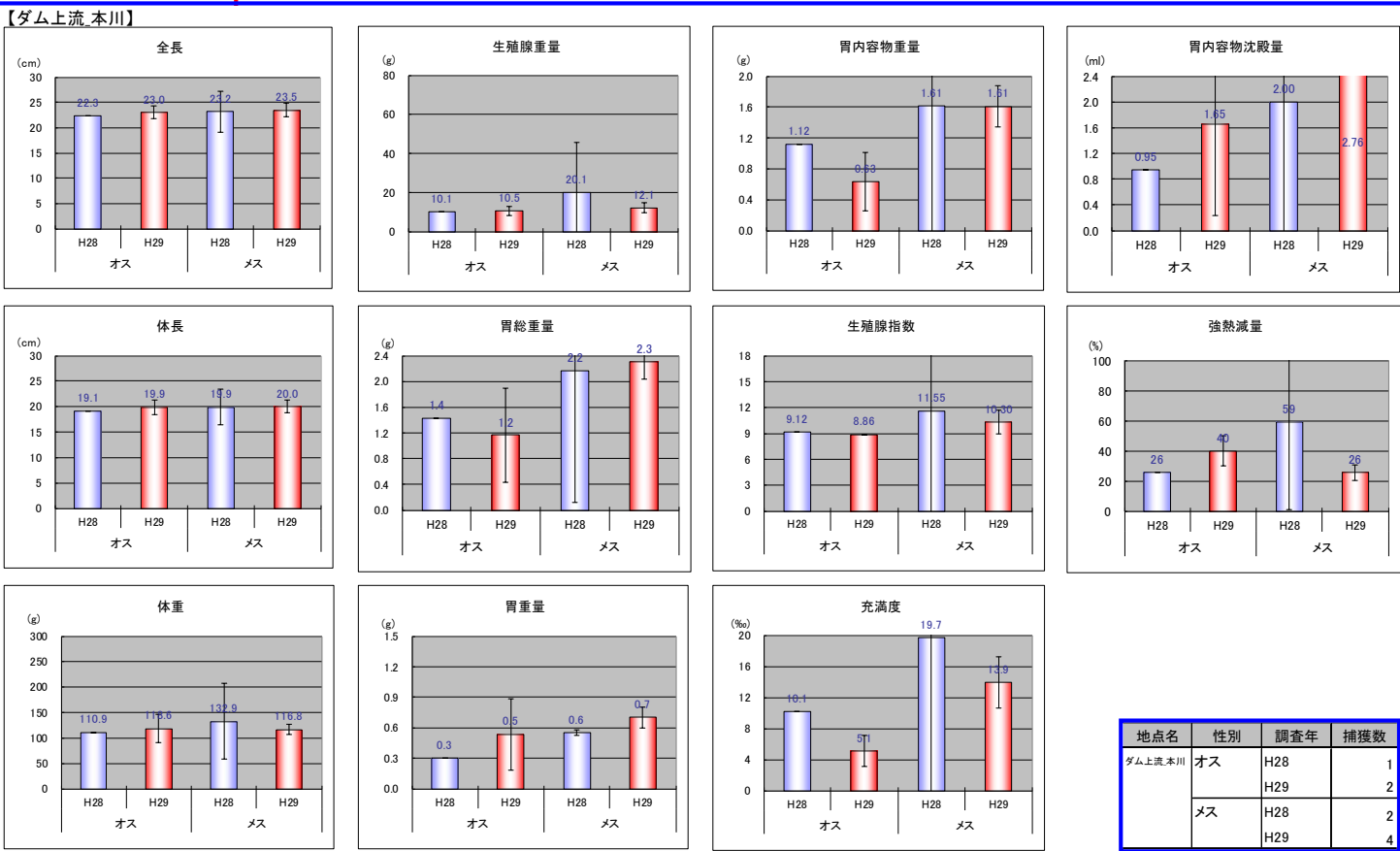


地点名	性別	調査年	捕獲数
下代瀬	オス	H25	8
		H26	0
		H27	4
		H28	9
		H29	6
	メス	H25	2
		H26	0
		H27	6
		H28	2
		H29	7

【分析方法】
①解剖前に、性別、全長、体長及び体重を記録・計測する。
②解剖後に、生殖腺重量、胃総重量、胃重量及び胃内容物沈殿量を計測する。
③測定結果から、胃内容物重量、生殖腺指数及び充満度を計算する。
④顕微鏡により、藻類や水生昆虫類等の分類を行う。藻類は藍藻類・緑藻類・珪藻類などの種レベル、水生昆虫類はカゲロウ目等の目レベルの分類とする。
⑤予め全容量を計測しておき、プレパレート上に占める面積比から、各生物や無機物の重量比を計算する。
⑥最後に強熱減量を分析する。

平成 29 年の捕獲状況

		下代瀬		道の駅坂本		不明	百済川			葉木			与奈久		西鎌瀬		瀬戸ダム下流	
		オス	メス	オス	メス		オス	メス	不明	オス	メス	不明	オス	メス	オス	メス	オス	メス
秋季	捕獲日	10月4～6日	10月4～6日	10月30日	10月31日	—	—	11月1日	—	10月31日	10月31日	—	10月30日	10月30日	—	—	—	—
	捕獲数	6	7	3	4	—	—	1	—	1	1	—	1	3	—	—	—	—



地点名	性別	調査年	捕獲数
ダム上流 本川	オス	H28	1
		H29	2
	メス	H28	2
		H29	4



